

2023年3月期 第1四半期 決算説明会

2022年8月3日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

2023年3月期 第1四半期決算状況

1. 概要	4
2. 売上高・利益	5
3. セグメント別業績	8
・自動車電池（国内）	9
・自動車電池（海外）	10
・産業電池電源	11
・車載用リチウムイオン電池	12
・特殊電池およびその他	13
4. 貸借対照表	14
5. トピックス	15

2023年3月期 第1四半期決算状況

- 世界経済は、部材不足や中国の都市ロックダウンなどによる混乱が継続しています。また、ウクライナ情勢などに起因する原材料価格上昇、エネルギーコスト増加などインフレが加速しており、インフレ抑制のため米国は金融引き締めペースを早め、日米金利差拡大により円安が進みました。
- 売上高・営業利益は、主としてハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量の増加や、トルコ拠点を連結化した影響に加え為替の円安影響もあり、増加しました。
- 経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は、持分法による投資損益の悪化および為替差損の計上などにより減少しました。

2. 売上高・利益

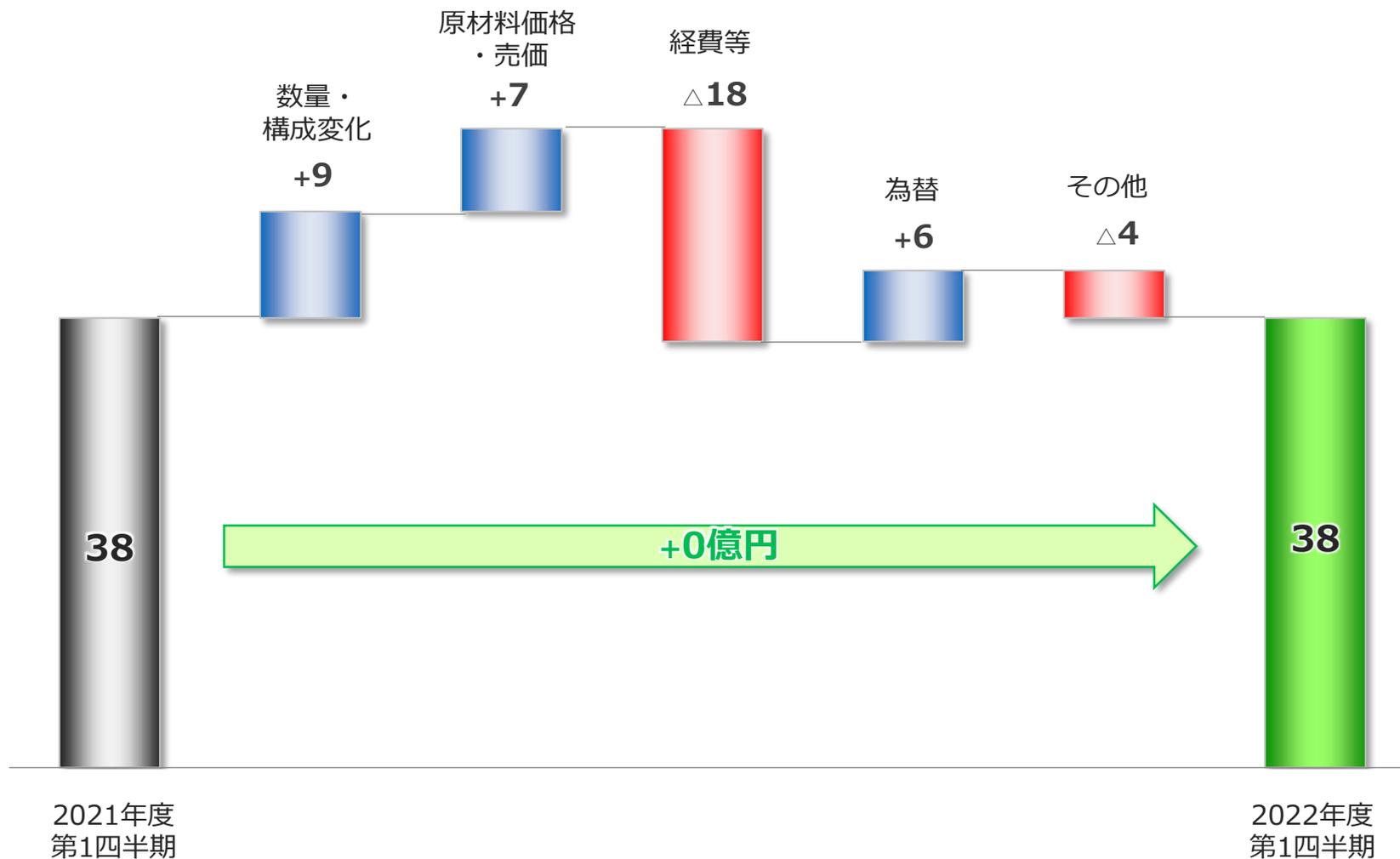


	2021 年度 第1四半期	2022 年度 第1四半期	増減	(億円) (前期比)
売上高	955	1,114	+159	(+16.7%)
営業利益 (営業利益率)	32 3.4%	36 3.2%	+4 △0.2P	(+11.2%)
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	38 4.0%	38 3.4%	+0 △0.6P	
経常利益	43	22	△21	(△47.4%)
特別利益	15	10	△5	
特別損失	6	1	△5	
税前四半期純利益	52	31	△21	
法人税等	12	13	+1	
非支配株主に帰属する四半期純利益	13	12	△1	
親会社株主に帰属する四半期純利益 (四半期純利益率)	27 2.8%	6 0.5%	△21 △2.3P	(△77.1%)
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益 (のれん等償却前四半期純利益率)	32 3.3%	9 0.8%	△23 △2.5P	
国内鉛建値 (万円/t)	29.14	34.82	+5.68	
L M E (US\$/t)	2,127	2,203	+76	
為替 (円/US\$)	109.76	131.25	+21.49	

2. 売上高・利益

営業利益増減要因（前年比較）

（億円）

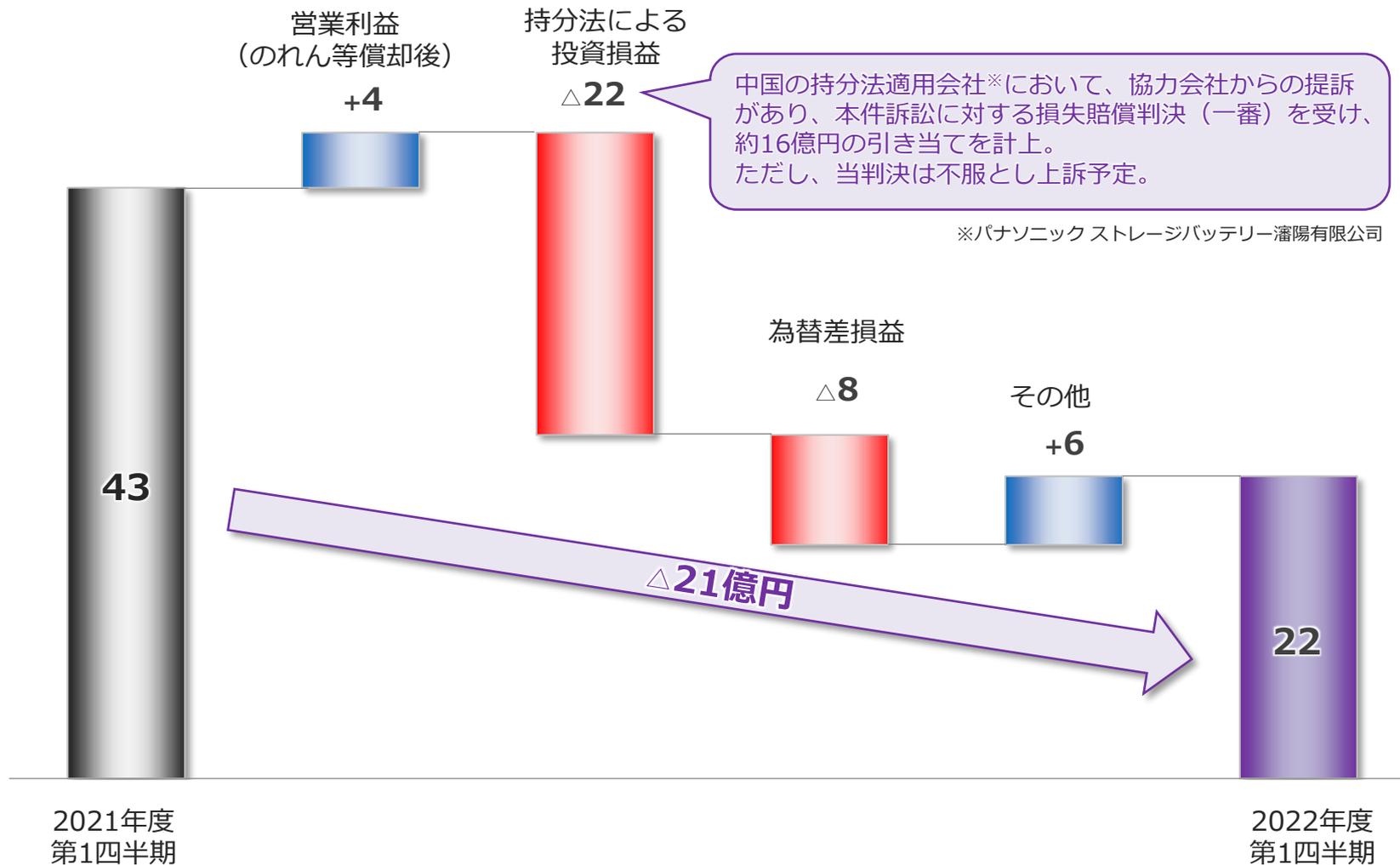


(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

2. 売上高・利益

経常利益増減要因 (前年比較)

(億円)



3. セグメント別業績

(億円)

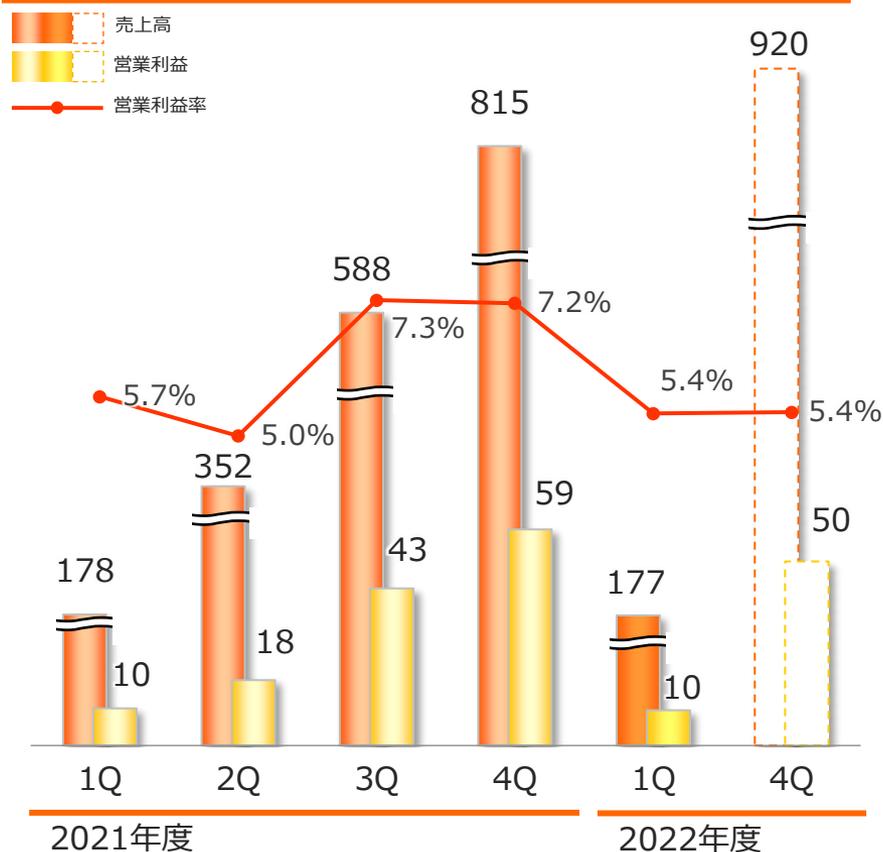
		2021 年度 第1四半期		2022 年度 第1四半期		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	178	10 (5.7)	177	10 (5.4)	△1	△0 (△0.3)
	海外	447	30 (6.6)	600	30 (5.0)	+153	+0 (△1.6)
産業電池電源		199	△6 (△3.1)	174	△5 (△2.6)	△25	+1 (+0.5)
車載用リチウムイオン電池		89	2 (1.8)	124	4 (3.1)	+35	+2 (+1.3)
特殊電池およびその他		41	3 (6.5)	40	△1 (△1.8)	△1	△4 (△8.3)
合計		955	38 (4.0)	1,114	38 (3.4)	+159	+0 (△0.6)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

3. セグメント別業績（自動車電池（国内））

自動車電池（国内）

売上高・営業利益・利益率



減収減益

(億円)

2022年度 第1四半期商況

- 新車向け販売数量は、半導体不足などによる新車メーカー減産が継続し減少
- 補修向け販売数量は、保有車両の継続使用増加の影響により好調に推移

増減益要因

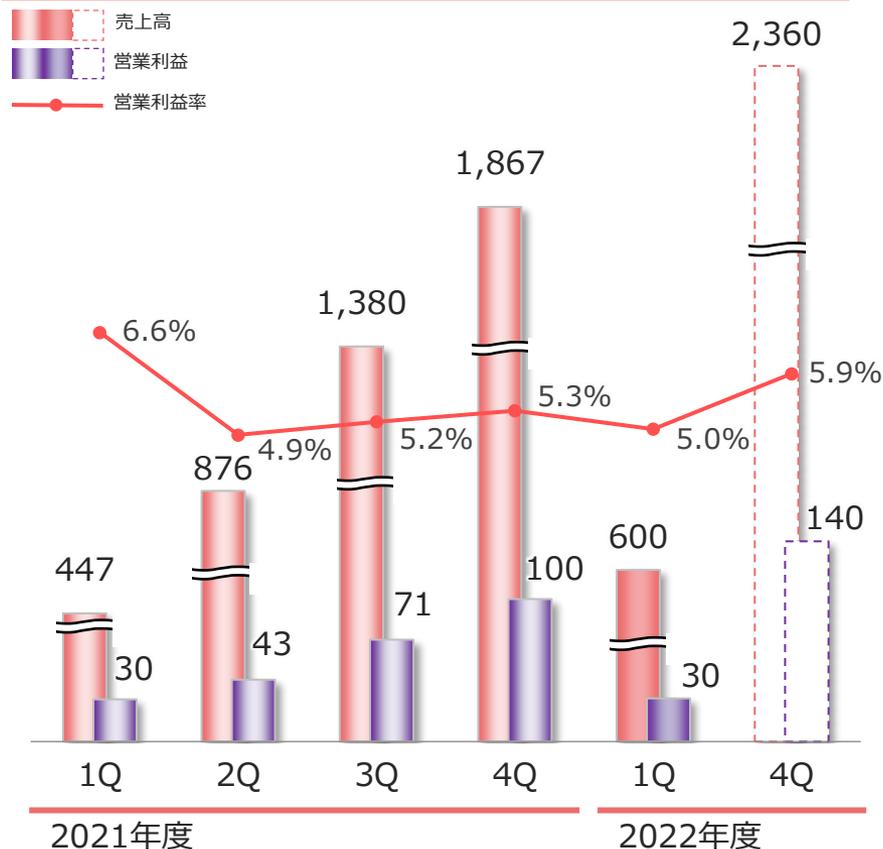
数量・構成変化	△4
原材料価格・売価	+3
合理化・経費等	+1

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

3. セグメント別業績（自動車電池（海外））

自動車電池（海外）

売上高・営業利益・利益率



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

増収増益

(億円)

2022年度 第1四半期商況

- ▶ 東南アジアは国により状況は異なるものの自動車・オートバイ用販売数量は好調を維持
- ▶ 中国では上海のロックダウンの影響により自動車用販売数量が減少
- ▶ トルコ拠点の連結化により自動車用販売数量が増加
- ▶ 円安の影響により売上高が増加

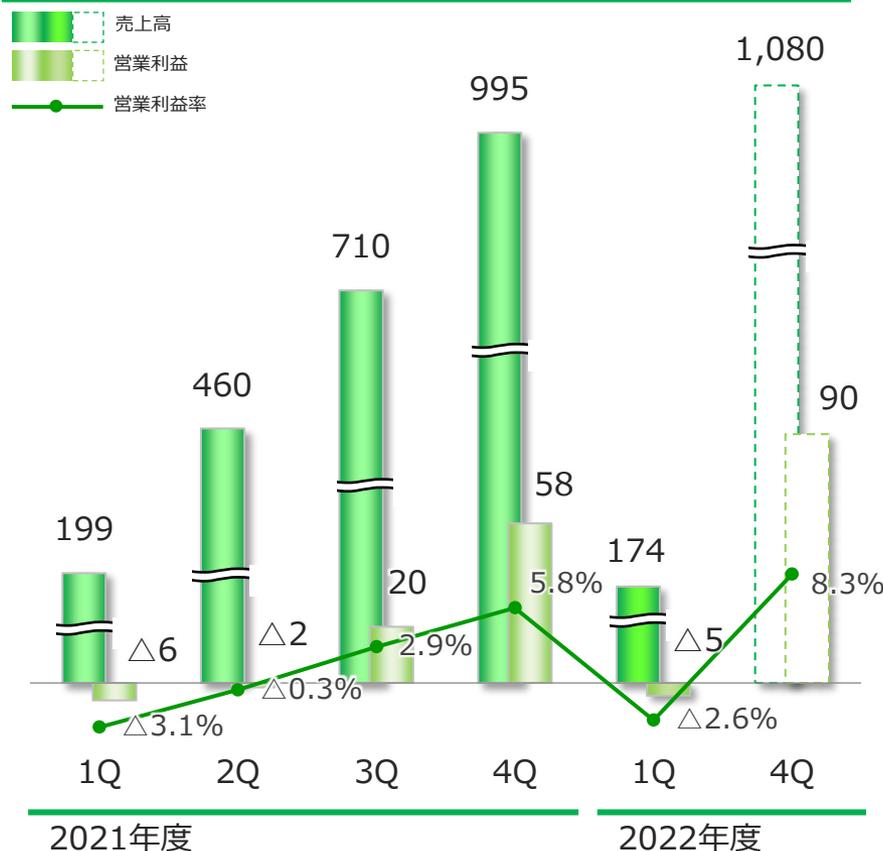
増減益要因

数量・構成変化	+4
原材料価格・売価	+3
合理化・経費等	△13
為替	+6

3. セグメント別業績 (産業電池電源)

産業電池電源

売上高・営業利益・利益率



減収増益

(億円)

2022年度 第1四半期商況

- ▶ 北海道大規模風力発電向け系統連系用リチウムイオン電池の納入が前年度で終了したことで売上高が減少
- ▶ フォークリフト用は補修向け数量が堅調に推移

増減益要因

数量・構成変化	+1
原材料価格・売価	△0
合理化・経費等	+0

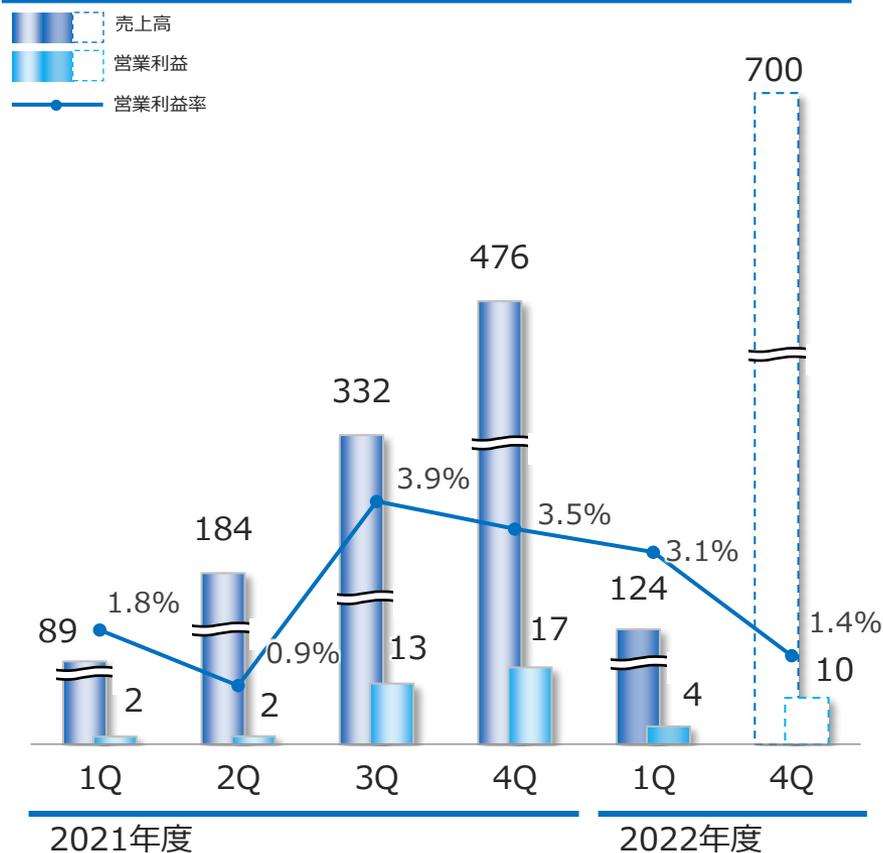
3. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

車載用リチウムイオン電池

増収増益

(億円)

売上高・営業利益・利益率



2022年度 第1四半期商況

- ▶ハイブリッド車用リチウムイオン電池は採用車種の拡大により増加
- ▶ブルーエナジー第2工場が2022年4月に稼働開始

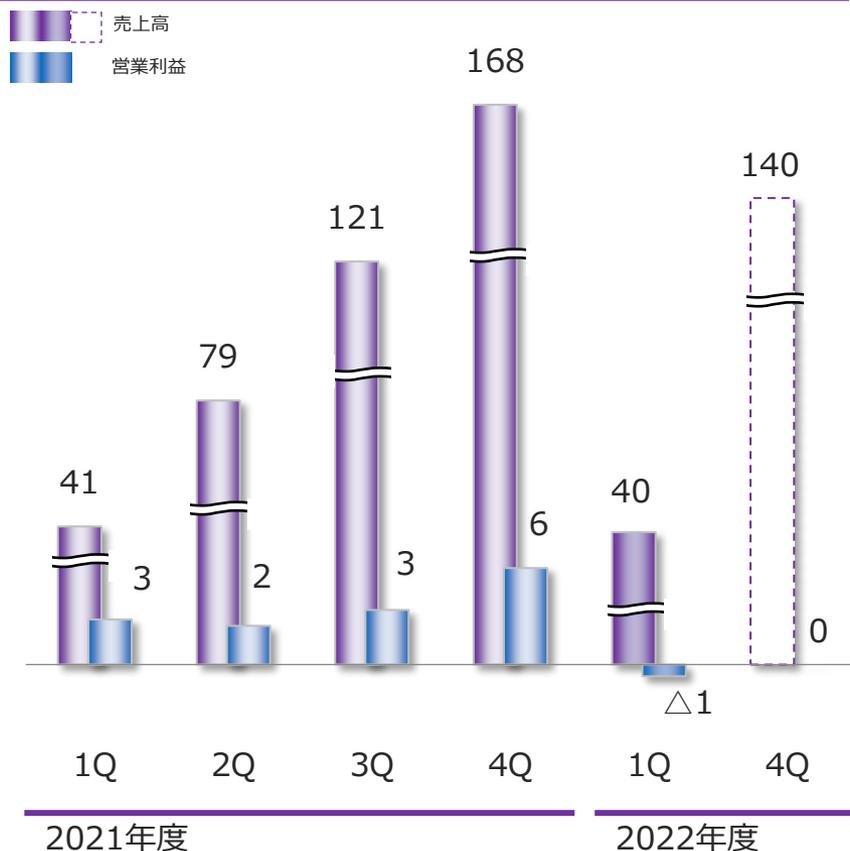
増減益要因

数量・構成変化	+7
原材料価格・売価	+1
合理化・経費等	△6

3. セグメント別業績 (特殊電池およびその他)

特殊電池およびその他

売上高・営業利益



減収減益

(億円)

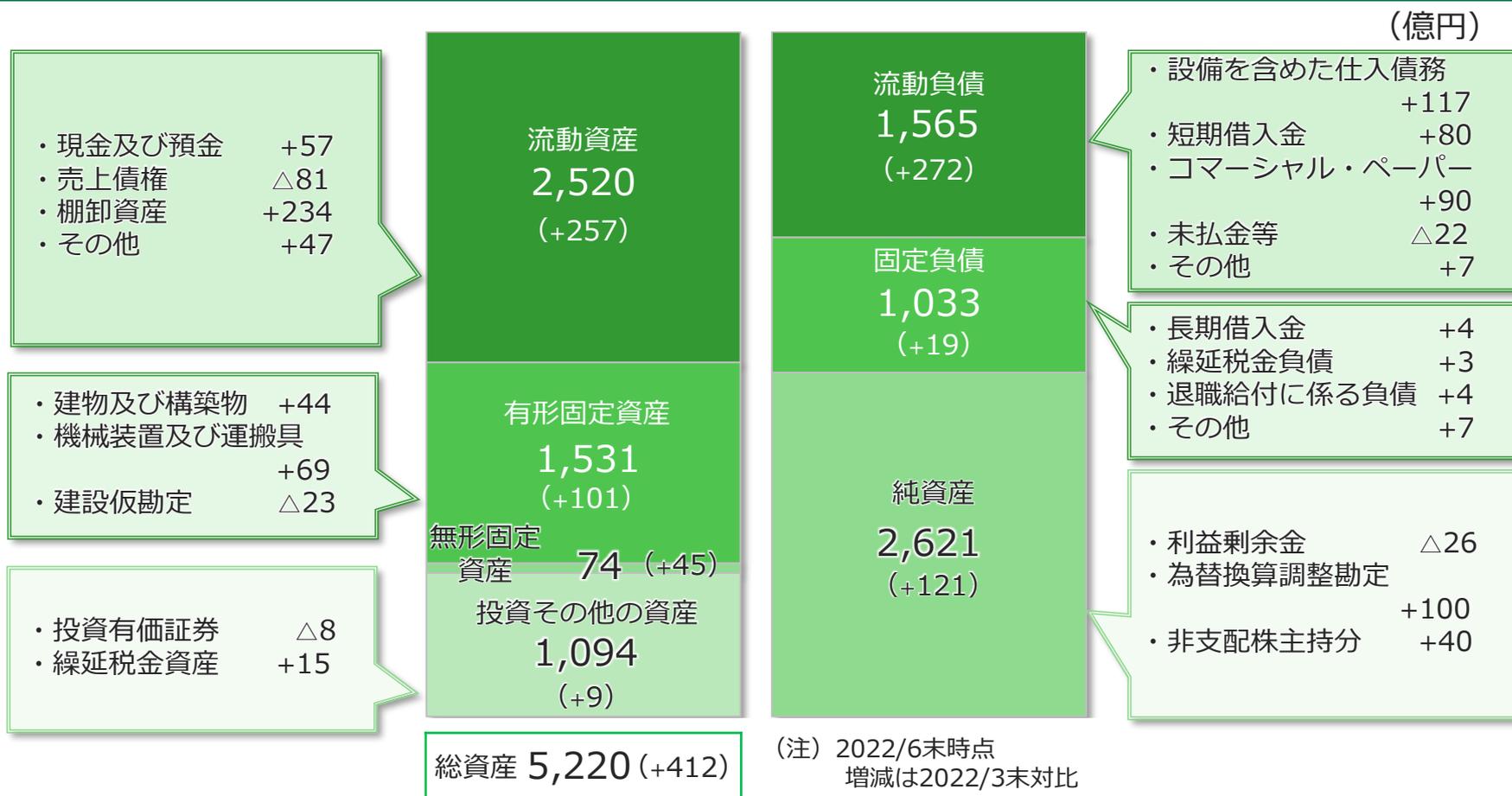
2022年度 第1四半期商況

- 潜水艦用リチウムイオン電池の売上高は工事進行基準の関係で減少
- 航空機用リチウムイオン電池はエアライン（補修）向け販売数量が増加

増減益要因

経費の増加により減益

4. 貸借対照表



	2022/3末	2022/6末
自己資本比率	44.8%	42.8%
借入金総額	825億円	999億円

5. トピックス

「MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)」・令和3年度「なでしこ銘柄」に初選定

< GPIF※が採用する国内株式のESG指数すべての構成銘柄に選定 >

※ GPIF:年金積立金管理運用独立行政法人

■ 初選定

2022 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

■ その他のESG指数

2022 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数



FTSE Blossom
Japan



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



S&P/JPX
カーボン
エフィシエント
指数

< 「なでしこ銘柄」に初選定 >

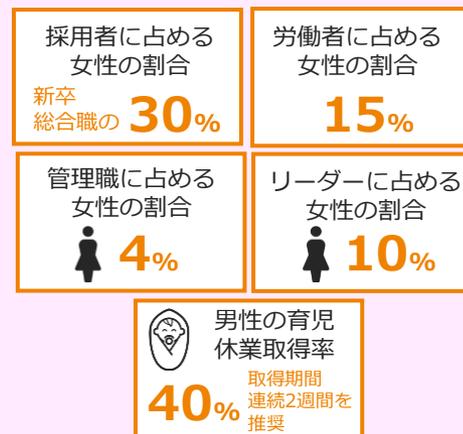


中長期の企業価値向上を重視する投資家に、女性活躍推進に優れた上場企業を魅力ある銘柄として紹介することを通じて、企業への投資を促進し、各社の取り組みを加速していくことを目的として経済産業省と東京証券取引所が共同で選定するもの

女性活躍の主な取り組み

1. 「仕事と育児の両立情報交換会」を開催
2. 時間単位休暇の取得上限回数の増加 (24回⇒40回/年)
3. 連続休暇制度の新設 (3日以上、5日以内)
4. 半日休暇の取得回数制限の撤廃 (24回/年)

女性活躍推進の目標 (2024年までに)



株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーションのMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたは指数名の使用は、MSCIまたはその関係者による株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーションの後援、推薦またはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI指数の名前およびロゴはMSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーションが第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Index並びにFTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Index並びにFTSE Blossom Japan Sector Relative IndexはグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス (ESG) について優れた対応を行っている企業並びに日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。FTSE Blossom Japan Index並びにFTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。

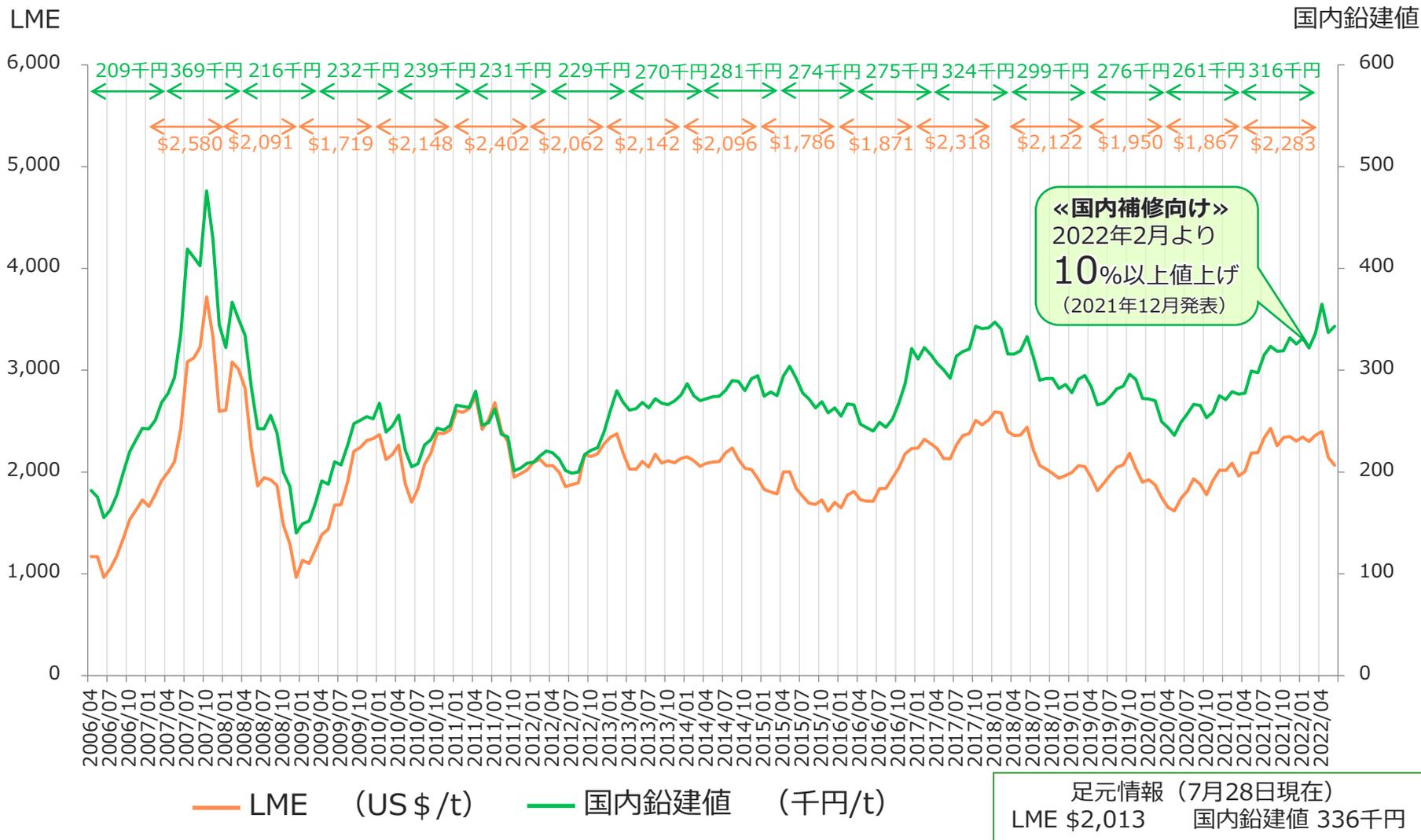


連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報） 青木 裕 ・ 西島 務 ・ 田中 祥太
Tel : 075-312-1214
<https://www.gs-yuasa.com/jp>

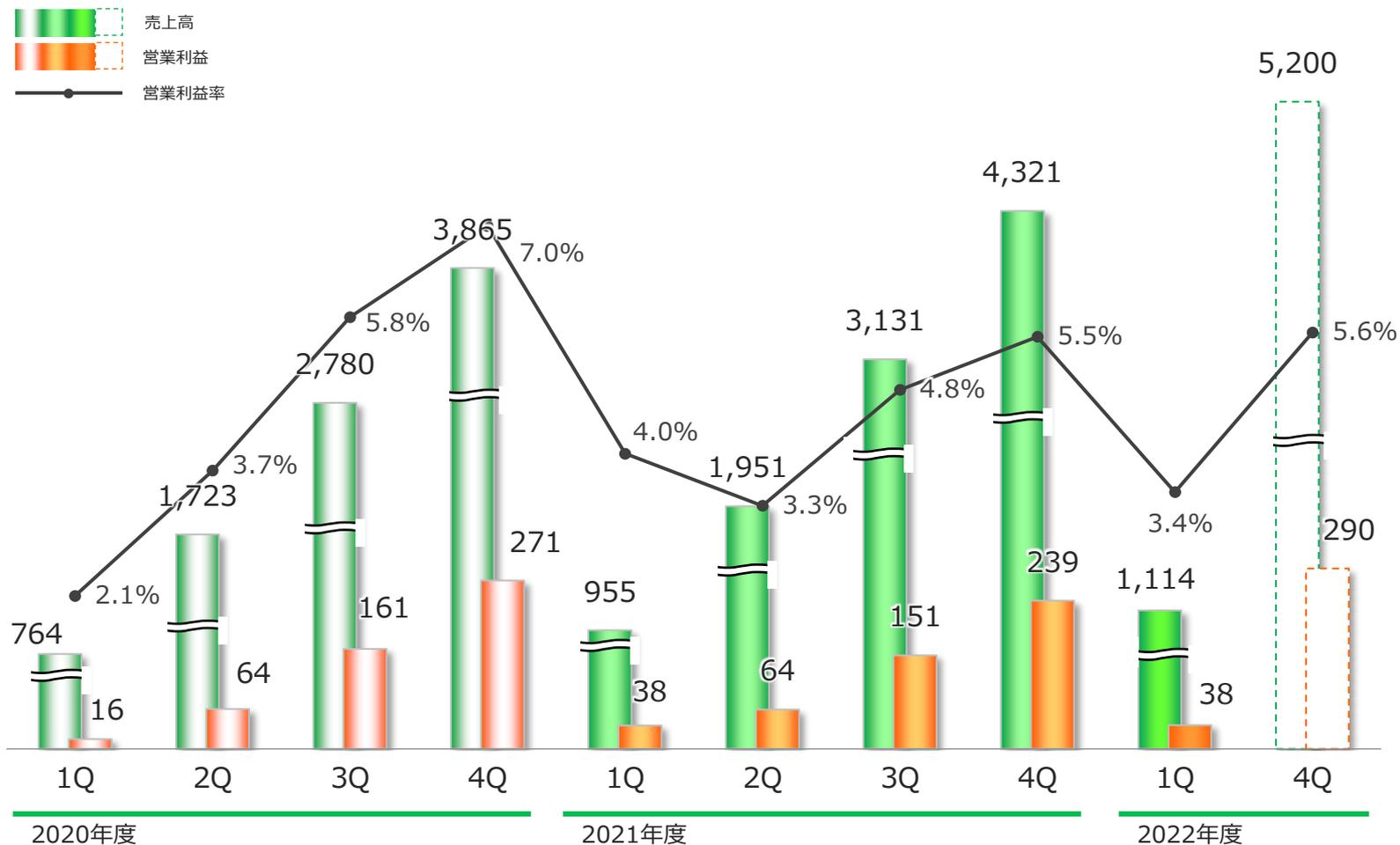
參考資料

原材料価格の推移



売上高・営業利益・利益率推移

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。